

中国日本商会

「北京市外との往来規制にかかる実態調査」調査結果

2022年11月11日

1. 調査概要

- (1) 調査対象：中国日本商会会員企業 552 社
(市内法人会員 474, 市外法人会員 78)
- (2) 調査期間：2022年10月26日～31日
- (3) 調査方法：オンライン回答
- (4) 回答企業数 97 社 (回答率 17.6%)
- (5) 調査目的：北京市では本年8月頃から、新型コロナウイルスの感染者が出た区域を訪問すると健康コードに「弾窓」(ポップアップ)が表示されるようになり、この解除が容易ではないこと等から、市外からの出張者が北京到着後そのまま隔離させられたり、北京市外に出た出張者が北京に戻れなくなったりする事例が多く発生。このような移動規制が北京市内の日系企業の事業活動にどのような影響を及ぼしているかについて把握する。

2. ポイント

◎87.6%の企業に弾窓が出たり、隔離を命じられたり、北京市への訪問が認められない従業員が存在。また、そのうちの70.7%が原因が明確ではなかったと回答。

その内容 (複数回答)

- 北京市の居住者が、市外に行った後、市内に戻り、自宅隔離となった。(64.0%)
- 北京市外からの訪問者が、北京市の往来規制により、北京市を訪問できなくなってしまった。(54.6%)
- 北京市の居住者が、市外に行った後、市外で隔離までは求められなかったが、市内に戻れなくなった。(44.3%)
- 北京市の居住者が、市内で濃厚接触等の疑いがあったため、自宅隔離となった。(42.3%)
- 北京市の居住者が、市外に行った後、市外で隔離となり、市内に戻れなくなった。(22.7%)
- 北京市外からの訪問者が、市内に来た後、北京市で隔離となった。(18.6%)

◎日本から北京市外に入国後、隔離期間中に弾窓が出て、隔離終了後も北京市内に入れない事例が17.5%の企業に存在。また、そのうちの85.7%が合理的な理由ではなかったと回答。

(自由記述から)

- 当社の顧客が、天津入境隔離中にポップアップが表示された。10日間の隔離解除後も消えなかったため、他の宿泊施設に移動し毎日解除申請を行ったが、解除されるまでの7日間は天津

の宿泊施設に滞在せざるを得なかった。このようなケースが複数発生している。

- 日本から天津に入境、集中隔離期間を経ても弾窓③が消えず、天津市内のリスク地区がない区でさらに 10 日滞在するも弾窓③が消えず。
- 7 月に日本から北京に赴任になった際、大連で入国して隔離を受けましたが、隔離ホテルの地域が中リスクになったことを理由に隔離期間が延長された。(隔離中のため、接触のリスクが無いにもかかわらず)

◎87.6%の企業が「北京市の行動制限措置について合理的ではない」と回答。

その内容（複数回答）

- リスク地区を訪問していないにもかかわらず、リスク地区のある省や市に行っただけで弾窓が出て、行動規制を受けた。(74.2%)
- 在宅健康観察期間が3日の場合があったり、7日の場合があったりして、それらの期間の合理的根拠が不明であった。(62.9%)
- リスク地区から北京に戻り、3日～7日間自由に行動していたところ、弾窓が出てそれから自宅隔離となった。(45.4%)

(自由記述から)

- 同一行動をとっていても、社区や人により隔離期間が違うことがあり運用が不透明。
- 北京市外からの訪問者が、市内に来て自由に行動した後、弾窓が出て北京市内で隔離となり滞在ホテルから出られず市外に戻れなくなった。
- 本影響により北京に戻れず、天津滨海新区に滞在して一ヶ月以上経つ。
- 弾窓されるケースとされないケースがあり運用が不透明である。
- 北京市外で弾窓が出て戻れなかった社員が、弾窓が消えたので北京市へ戻ろうとしたところ、市の境界で戻るように言われ北京市へ入ることができなかった。
- 国慶節から約1か月帰京できない日本人が2名もいる。日本大使館や北京 12345 へ相談しても埒が明かない。また広州出張で1週間以上帰京できない日本人が1名いる。

◎**弾窓解除のための連絡**（社区や北京 12345 など）が弾窓の速やかな解除、隔離期間短縮等の効果に結びついたかを訊いたところ、「あまり効果がなかった」（37.1%）、「おおむね効果があった」（19.5%）、「連絡がとれないことが多かった」（12.4%）が続き、自由回答では「ほぼ毎日解除申請しているが、解除されない」「電話は自動音声のみ」「微信も機械的な回答のみ」「北京市外にいる場合対応不可」などが挙げられた。

◎北京市外との往来規制が昨年秋と比べて厳しくなったと回答した企業は**94.9%**。
往来規制が**事業活動に影響があるか**を訊いたところ、**95.9%**の企業が**悪影響があると回答している**。

（自由記述から）

【隔離による事業への影響】

- 全従業員の75%が自宅隔離などの制限を受けている時期があった。これでは業務にならない。
- 総経理が会社に出社できない状況が継続した。
- 総代表が7日間の自宅隔離となり業務が停滞した。

【出張できないことによる事業への影響】

- 中国国内のコロナ対策に関し、ルールに地域差があり、また変化も多いため、国内の移動が著しく制限され、事業活動に影響が大きい。これは日本企業だけの問題ではなく、中国にある全ての企業が感じる問題。中国経済に大きなマイナスとなっている。
- 持分譲渡交渉は譲渡相手と金額・条件等、顔を突き合わせて丁々発止で行う性質のものだが、売買両者とも出張を控え、WEB会議やWeChatでは深く細かい交渉がやりにくく（双方とも発言内容が録音や録画されていることを前提とせざるを得ない）、遅々とした進捗状況となっている。
- いつ弾窓が出るか予想がつかないので現地拠点訪問の予定が全く立たない。オンライン業務にも限度がある。
- 出張を取り止めてオンラインの業務で対応しているが、効率や成果の度合いが低下していると実感する。
- 本来は上海北京間で月に1～2回出張が必要であるが、それがほぼ実現できていない。物理的に移動できる時期もあったが、行動制限がかかるのかどうか読みづらく、自粛せざるを得ない。
- 事業パートナーが全て北京市外にいるため、対面でのミーティングができない。この状況は昨年来続いており、リモートでの対応を余儀なくされているが、双方の人事異動等から相手先との信頼関係が構築できておらず、その打開が困難であると感じている。

- 国内出張さえほとんどできなくなり、ビジネスに大きな影響を与えている。
- 地方の顧客との契約更新が困難になった
- いつ弾窓が出るか分からないので、出張を削減せざるを得ず、内部監査など本来求められている成果を出すのに限界がある。
- いつ弾窓が出るか予想がつかないので現地訪問の予定が立てづらく、在北京顧客・関係先との直接対話の機会が減ったことで商機縮小につながっている。
- 北京市内の顧客を担当する外地在住の担当者は、平常時なら外地から出張で北京に来るところ、往来規制が予測不可能なため、北京市内のホテルに1ヶ月以上滞在を続けており、他地域の顧客訪問ができなくなっている。北京市内の担当者が出張ベースで国内多拠点の機器をメンテナンスしているところ、往来規制が予測不可能なため、仕方なく外注に切り替えた。
- 新規顧客とは面談が必要だがそもそも出張できない。顧客も北京からの出張者として面談回避傾向。商談が進展しない。WEB会議で話を進めた後、詳細等面談が必要となるも面談できないため商談進展に影響。
- 居住地小区や行先ホテルからの指示により出張できない場合がある。このため中国から日本への船積みに立ち合いできない。
- 地方の顧客への提案活動ができなくなった。
- 協力企業との関係構築に手間がかかるようになった。現地で何が起きているのかを言葉で聞いても肌で感じない限り十分に理解が深まらない。そのため、対応策の策定に手間暇がかかる。得意先訪問ができず、営業成績の向上に資する顧客との交流ができない。よって、業績を改善する手立てがない。
- 1例でも感染例が発生したエリアに滞在していた場合には北京へ戻ることができないという規定があるので市外への出張は見合さざるを得ない。地方の顧客と新しい協力テーマの話が全くできない。
- 市内に戻って弾窓ならまだ良いが、北京に戻れないかもしれないリスクがあるため、①プロジェクト現場に行けず、監理ができない。②地方顧客への訪問ができず、覚書締結の延期が長いものでは1年以上続いている。
- 天津との往来ができなくなっているため、クライアント訪問やサポートに不自由を生じている。
- 北京責任者が関連会社の株主会、董事会などの重要会議に参席できず意思決定の遅れが発生。各種政府イベントへの不参加などにより先方への迷惑、信頼の低下。顧客訪問機会減少による事業環境の悪化など。
- 中国国内の企業グループで毎年開催する人事、法務、ITの各分野の合同会議の開催について、キャンセルや延期を余儀なくされた。
- 今のような規制が続けば、多くの多国籍企業が中国トップの北京駐在を見直し、他の都市に移ることになるだろう。

【スケジュールが立たなくなることによる影響】

- 現在、上海で勤務しているが弾窓③が出ており、北京への出張ができない状況で困っている。もし、出張できても北京でまた隔離されるのではないかと心配かつ隔離されると仕事のスケジ

ルール変更が生じビジネスに支障をきたす。

- 北京に本社があり、いつ弾窓が出るか予想がつかないので市外訪問の予定が全く立たない。
- 社員に北京市内の移動にもかかわらず弾窓が出ている、外部からの入京後の隔離などを考慮して、ほとんどの出張を見送っている。また、上海、北京からの来訪者が足止めを避けて入境を見合わせている。
- いつ弾窓が出るか予想が付かないため、地方訪問の予定が立たず、商談が進まない。
- 北京市内での重要イベント・会議に北京以外からの人を呼びにくいいため、事業推進の妨げとなっている。
- 3件以上の大きいイベントや会議もコロナの影響でキャンセルや延期となった。
- 総代表や出張者の来京も、北京のスタッフが地方へのお出張もできなかつたりするため、事業活動への悪影響は明白。
- 突然に自宅隔離となったことが頻発し、予定通りの業務遂行はむずかしくなった。

【北京に戻れなくなったことによる影響】

- 業務は回っているが所長が北京本社を一ヶ月以上も不在にしていること自体がよくないと感じている。
- 天津から北京に単身赴任中の副総経理が、一度、天津に帰った後、天津から戻ってこれなくなった。
- 帰京できない従業員がおり、業務が滞り、コストも増加している。
- 他都市へ出張したスタッフが帰京できなくなり、通常業務に支障を来した。日本から中国へ入国したにもかかわらず、弾窓2ではなく弾窓3が出て予定通り帰京できずに通常業務に支障を来した。
- 弾窓画面が2週間消えず、市外で滞在を余儀なくされ、スケジュールを全てキャンセルせざるを得なくなった。
- 多くの社員が国慶節後に北京市へ戻ることができず減産せざるを得なくなった。

【市外からの訪問に対する7日間の制限】

- リスク地域からの入京でない、弾窓していない、核酸検査は陰性である、にもかかわらず、北京市内に1週間以上いなければビルや会議室に入ってはいけないというルールがあるため、会議や打合せが地方顧客とできない。

◎北京市が行っている防疫措置への要望事項

(自由記述)

- 弾窓の発信とその解除について合理的な根拠を明確にして欲しい。
- 北京市外での集中隔離終了後は市内への移動を柔軟に認めて欲しい。
- 弾窓が出た後に届くショートメッセージにリンクのある「京民通社区服務通道」ミニプログラムが身分証番号しか受け付けず外国人対応ができておらず、社区への報告ができない。
- 外国人用の健康宝について、中国人用の健康宝と同様に市外で受けたPCR検査の結果を反映す

るようにして欲しい。

- 「国家政務服务平台」アプリに外国人対応機能を付加して欲しい。
- 外国人が居住する全ての公寓において3日間の在宅健康観察を認めて欲しい。
- 河北省燕郊や天津市に居住する職員の北京市内への通勤を認めて欲しい。
- 弾窓の発生基準の明確化かつ不合理な基準であれば撤廃して欲しい。
- PCR検査を受ける際、パスポート提示ではなくQRコード対応へ簡素化して欲しい。
- 北京で言う「健康宝」を全国统一のものに変えていただきたい。各省市で異なるので不便。
- 北京空港から入国した場合の隔離場所について、他都市と比べて不評が多いようである。各ランク(金額別等)で場所の選択肢があればよい。
- 外国人が居住する全ての公寓において3日間の在宅健康観察を認めて欲しい。北京市だけの管理ではなく、天津、華北での広範囲での管理に拡大して欲しい。
- 弾窓が出た後、携帯電話に(自動音声でない肉声)3度ぐらい照会が来た。住所を中国語で口頭伝授するのは難儀だった。
- 弾窓の対象となる地域を自身の健康宝等で北京市入域前に確認できるようにして欲しい。
- 北京12345で外国人対応(日本語、せめて英語対応)をして欲しい。現状は弾窓解除申請をしても全く効果がない。また入力が中国語での対応しかないため、煩雑。
- 生徒本人及び同居人(親)が北京市外から戻った場合、7日間は学校に戻れないルールを緩和して欲しい。現状では、親が北京市外への出張に行けない。
- 北京の防疫措置は全国の他地域と異なり、「独特・非公開的」な政策を実施していることから、国務院より認定されている低リスク地域または非リスク地域から北京に戻っても、隔離を講じられる可能性がある。当該独自の防疫措置を取り止め、国務院の公布した「新型コロナウイルス蔓延防止方案V9」に規定されている全国统一な防疫措置の実施、運用が望ましい。

以上